

教師ノート

日付 2019年 7月28日

単元 創世記・2

テーマ 神をおそれる

タイトル バベルの塔

テキスト 創世記 11:1-9

参照箇所

暗唱聖句(教会で使用している聖書訳を記入して下さい)

Iコリント 10:31

AG 日曜学校教案参照箇所

小下 2 巻 1 題 3 課、小上 3 巻 3 題 2 課、中 2 巻 1 題 1 課、中 3 巻 4 題 5 課

メモ(情報・例話など)

人間は自分たちが力をあわせれば、神さまよりもすごいんだ、ということを示すために、塔を建てようしました。しかし神さまはそのような人間の傲慢な思いを喜ばれません。神さまは、人間のことばを混乱させ、互いに通じないようにされました。私たち造られたものは、自分たちのすごさではなく、神さまのすばらしさをあらわすために生きるべきなのです。私たちは、神さまに守られて生きているのです。私たちの能力は、すべて神さまから与えられた賜物なのです。神さまをおそれ、神さまのすばらしさをあらわす人になるろうと決心できるように導きましょう。

□導入

興味を起す質問をしましょう

例:世界には、どんな種類のことばがあるか知っていますか?もし、世界にひとつのことばしかなかったら、今よりもっと世界中の人が仲良くできると思いますか?世界中の人で自由に話しができたら、協力してどんなことをするでしょうか?良いことをするでしょうか?それとも…?

□ポイント1 人間は名をあげようとしてバベルの塔を建て始めました

(1~4節)洪水の後、「生めよ。増えよ。地に満ちよ。」と言われたように、ノアの子孫たちが増えていきました。また特に建築の技術が発展しました。しかし、人々はそれを神さまに喜ばれる方向に用いませんでした。ノアの息子たちから出た子孫も、「心に思い計ること」は悪だったのです。自らが名を上げるために、神さまの地位を奪うべく、高い塔を建て始めたのです。例え、いずれにせよ人間の力では神の領域に達することは到底不可能だったとしても、その動機の部分はおそろしいものです。

- ☞ 名をあげる: 威信を示すのが目的(実用聖書注解・いのちのことば社より)。人間は「自分たちがチカラと技術を合わせれば、神さまよりもすごいんだということを示そうとした」と説明すれば子どもたちにも分かりやすいでしょう。
- ☞ テキストの舞台はメソポタミアと考えられ、そこはパレスチナのように建築に使う石が多くありませんでした。代わりにレンガを焼く技術が発展し、それを接着するために瀝青(天然アスファルト)が用いられました。
- ☞ 10章で、民族や地方によって、国語があったことがわかります。これは、「全地はひとつのことば」であったという11章1節と矛盾するものではありません。11章の出来事は10章の前に起こったのでしょう。

□ポイント2 神さまは、人間のことばを混乱させ、互いに通じないようにされました

神さまは、人間のおごり高ぶる思いをよろこばれませんでした。人間が神さまよりもすごいことを示そうというたくらみは、結局、それを2度と不可能にする刑罰を導きました。神さまはことばを混乱させ、互いに通じないようにされました。そして全地に人々をバラバラに散らされました。ことばが通じないと、共同生活と技術の協力は妨げられます。理解できない人を信頼して一緒に働くことは難しいことです。高い建物を建てることや、人間が一致協力することは、それ自体悪いことではありません。悪いのは、神さまに造られ・生かされている恵みを忘れ、自分たちが偉いんだ！という高ぶった思いです。

☞ 高慢: 思い上がって、人をあなどること(広辞苑)。人間が自分の力にうぬぼれて、神さまを軽く見るという思い違いです。

☆みんなで考えよう。突然、お互いにことばが通じなくなり、全地に散らされた人たちの気持ちを考えてみよう。同時に、神さまの気持ちも考えよう。人間を造ったのは何のためだったかな？6月の暗唱聖句(イザヤ43:7)を思い出してください。人間は神さまの栄光をあらわすために造られたのに、「俺たちは神さまより偉いんだよお～」という、思いをもつようになりました。そのような反抗的な態度をごらんになって、神さまはどんな気持ちになっただろう？

(以下の2点については、このメッセージでは詳しく触れていませんが、重要な点ですので、導かれる方は準備をして語りましょう。①ことばを混乱させ、人を全地に散らされたのは、高慢な人間に対する刑罰でしたが、そのことによって、「地に満ちよ。」という神さまのみこころが成されました。②ペンテコステの日に、聖霊の恵みによって、ことばの違いを超える一致が与えられました。)

□ポイント3 自分のすごさを誇るのではなく、神さまのすばらしさをあらわす人になろう！

暗唱聖句を読み上げます

人間は自分たちのすごさをあらわすのではなく、神さまのすばらしさをあらわすために生きるべきなのです。神さまが、そのために私たちを造り、生かしてくださっているのですから。

神さまは、神さまをおそれる人に恵みを与えてくださいます。それは聖書を読めば明らかです(ノア・アブラハム・ヨセフ・モーセ・ダビデ・ダニエル・・・など)。また以下の聖句は必ず読んでください【創22:12、申6:24、詩25:12,14、33:18、34:9、103:11-17、128:1-4、147:11、箴8:13、マラキ4:2】。

私たちは、神さまに守られて生きているのです。私たちの能力は、すべて神さまから与えられた賜物なのです。そのことを感謝して、神さまのすばらしさをあらわす人になろう！

□結論 神さまは、自分たちのすごさを示そうとして塔を建てた人間のおごり高ぶる心を、よろこばれませんでした

□適用 (聞き手に最もふさわしい適用が与えられるように祈りましょう)

神さまがあなた祈りに応えてあなたのサッカーチームを試合で勝たせてくださっても、あなたが「ボクのおかげで勝ったんだ」と言ってしまったら神さまは悲しいでしょう。あなたは、どんなことで、「自分はすごい！」と自信をもっていますか？それは、本当にあなたのチカラですか？元々は神さまから与えられたものではありませんか？あなたに、すばらしい賜物を与えてくださっている神さまに感謝しよう！

あなたは「キミってすごいね～」と言われるのと、「イエスさまってすごいね～」といわれるのではどちらがうれしいですか？神さまのすばらしさをあらわす人になろう！